

高台寺の林泉は豊太閣御靈舎の下段方丈の東にあり、風光奇雅にして洞庭を縮の佛あり。旧此地は雲居寺岩栖院金仙寺等の古跡なり。当山の嶺を鷺峯といふ、鷺尾中納言隆良卿の山荘の跡によつて号るなり。慶長年中豊太閣の夫人高台院湖月尼公の營給ひ、則こゝに葬りて石塔婆あり。又其側に天哉翁長嘯墓を建る。御靈舎は宝形造にして内外莊嚴花美なり。長押の上に卅六歌仙を掲る、和歌は八条智仁親王筆、画は土佐光信なり。秀吉公影、政所尼公影、三江和尚像、木下一位法印像。「常光院殿一位茂叔淨英と号す」法印妻尼像。「雲照院齡岳永寿と号す」堀監物像。「千手院殿前城門郎傑山道英居士」されば当山は洛東の佳邑にして名区多し、春は桜花幽艶として匂ひ濃なり、夏は庭中の池の面に燕子花咲乱れ、又秋は萩の花錦を晒すが如く露深うして色をまし、鷺嶺の月皎々として鮮なり、冬は連峰に雪續紛と風に随ふて花を飛し、東坡が白鳳に騎かと疑ひ、宋玉が幽蘭白雪の曲を作れるの勝地なり】

秋過_ニ高台寺_ニ見_ニ芳宜花_一

龍公美

高台人_{カ也}靜梵王家。鳥雀群飛_ス樹外霞。

日暮放參鐘絕後。秋風摧紫鹿鳴花。

九日環中禪師邀_フ蕉中和尚及余_テ遊_ニ高台寺上方_ニ。余有_レ故不得_レ陪從_ヲ。

後讀_二其唱和詩_{ノヲ}有_レ感。因賦_テ呈_ニ三師_一。(寛政己酉春罹_{シテ}災鞠_{シテ}為_ニ荒場_一矣)

佳賓佳節興佳哉。

詩為兼秋更帶哀。

百六數帰巴■火。

金銀寺化漢地灰。

繖亭避雨寒吹帽。

菊水試茶香滿杯。

正使空門心不着。

堪看鹿跡上高台。

寛政己酉春高台寺罹災鞠為荒場矣。

環中禪師辛勤重構。亡幾殆復。

旧觀功亦偉哉。

巨夏支傾幸有人。

重榮花木挽回春。

唯除林表孤峰色。

二百年來事々新。

高台寺の花ざかりに

迷いてぞ世はおもしろき桜哉

定

雅

六

如

菴